令和４年度　　**化 学 基 礎**　　１１　新潟翠江高等学校（通信制）

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験回数
選択必履修	2	6	8	2

教　科　書	学習書・副教材等
改訂　新編　化学基礎　（東京書籍）	学習書：改訂 新編 化学基礎　（ＮＨＫ出版）

学　習　目　標

日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察，実験などを行い，化学的に探求する能力と態度を育てるとともに，化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ，化学的な見方や考え方を養う。

学　習　内　容

１編　物質の構成　　（第１、２回レポート）
２編　物質の変化　　（第３回レポート）　　前期試験範囲
　　（第４～６回レポート）　後期試験範囲

学　習　方　法

・レポート
　教科書に沿って学習し，内容を理解することができるように，レポートの問題は基礎，基本的なものが中心となっています。学習書には，教科書の内容を補足する説明が詳しく載っていますので，興味のある人や，進学して化学を専門的に勉強する人は学習書で理解を深めるようにしてください。

・授業
　授業では，レポートの内容にかかわる重要な法則や概念，量的関係などを中心に説明します。各回のレポートに対する授業の回数が少ない（１～２回程度）ため，かなりポイントを絞った説明となります。また，必要に応じて補足説明のプリントを配布します。

・校外授業と放送視聴
　学校での授業のほかに，校外の理科・科学関係の施設見学をしたり，ＮＨＫ Ｅテレの「高校講座　化学基礎」を視聴してレポートを書くことで，授業への出席に代えることが出来ます。上手に活用して，必要な出席時数（８時間以上）を満たすようにしてください

・試験
　試験にはレポートの学習内容を確認する問題を出します。改めて教科書・学習書を調べ直す必要はありませんが，レポートの内容や計算方法等を理解してきてください。レポートの解答を暗記するだけでは試験問題は解けません。

評 価 規 準 と 評 価 方 法

評価は次の観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身につけている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理･原則を理解し、知識を身につけている。

以上の点を踏まえ、レポートの評価，授業の出席状況，試験の成績などを総合して評価します。
単位が認定されるためには，次の３つの条件を満たすことが必要です。
①６回のレポートすべてが期限内に合格すること
②授業に８時間以上出席すること
③試験で一定以上の成績をとること（目安として，試験２回の平均が３０点以上）

担　当　者　よ　り　一　言

化学では，身の回りにある物質が，原子や分子，イオンといった目に見えない小さな粒子の集まりであるという考え方が基本となっています。感覚的にとらえにくい部分もあると思いますが，授業ではできるだけわかりやすく説明していきたいと考えています。レポートや授業でわからないところは，遠慮せずに質問してください。